

震災後もシイタケを生産 ～逆境に立ち向かう 宮澤光夫さん～

大和町

各地の話題

2018年11月16日 全国農業新聞



「うまかったよと皆に言ってもらえるのが嬉しくて辞められなかった」。大和町内でただ一人、露地栽培の原木シイタケを生産する宮澤光夫さん（68歳）は、東日本大震災による出荷制限の後も露地栽培を続ける理由をそう話した。

シイタケの露地栽培は、植菌したほだ木を林地内に伏せ込み、全て自然のままに育てる栽培方法。雨や土に触れるため、放射性物質の影響を懸念し、県内では出荷が制限されてきた。

宮澤さんは、露地栽培では出荷できないと分かっても栽培方法を変えなかった。味、香り、菌ごたえの強さにこだわった自分のしいたけをどうすれば出荷できるかを考え抜いた。

ほだ木を岩手県から取り寄せ、地面と接触しないように敷いた防草シートの上で栽培し、放射性物質の対策をした。何度も出荷制限解除のための検査を受け、2015年2月に念願の出荷が認められた。

その後のシイタケの売れ行きは好調で、消費者からは「うまかった」や「次はいつ出すの」という声が届いている。



宮澤さんは「大変だったけど、本当に頑張ったよ良かったと思う。これからも皆に喜ばれるシイタケをつくりたい」と今後の栽培に意欲をみせる。

【記事提供：大和町農業委員会】